

令和8年度 第1回 第10期高齢者福祉計画等策定委員会 議事録

日時： 令和8（2026）年8月31日 場所： 香美市役所 3階会議室

出席者： 9名（委員総数12名中、過半数出席により成立）

議題：

- ①会長及び副会長の選出
 - ②第10期計画の要点と香美市の現状【資料1 P.1～29】
 - ③第9期計画の重点施策に関する評価【資料1 P.55～61】
 - ④アンケート調査結果【資料1 P.30～54】
 - ⑤計画策定スケジュールについて
 - ⑥その他
 - ・ 社会福祉法等の一部を改正する法律の概要について【資料2】
-

1. 開会

① 課長挨拶

事務局より開会の挨拶が行われた。

② 出席者の自己紹介

各委員及び事務局職員の自己紹介が行われた。

2. 議題

① 会長及び副会長の選出

委員の互選により、会長に弘末委員、副会長に中山委員が選任された。選任後、弘末会長が議長席に着き、議事進行を引き継いだ。

② 第10期計画の要点と香美市の現状

事務局より、資料に沿って説明。

【高芝委員】 22ページの調整済認定率の比較で、高知県全体が全国より低くなっている理由や背景、特徴はあるか。

（事務局）： 特定の理由は現時点では不明だが、高知県全体として全国平均より低い傾向にあるため、香美市だけの傾向ではない。

【高芝委員】 他の香美市と過疎化が類似した自治体（島根県など）も同様の傾向か？

（事務局）： 「見える化システム」等を用いて、人口規模の近い他県の状況も確認し、回答する。

【山中委員】資料2ページにある「地域類型」について。本市は「中山間・人口減少地域」に該当するか。

(事務局)：最終的には高知県が指定する。市全域を指定するか、一部地域とするかは未定。

【山中委員】指定の方法によっては香美市が分断され、計画が二通り必要になってくるのではないか。

(事務局)：中山間・人口減少地域という類型になれば、新たな基準を緩和したサービス事業所の指定ができるようになる。計画自体はひとつの計画に検討内容を記載することになるため、二通り必要ということにはならないと想定される。

【山中委員】15ページの将来人口推計について。2万人を切るという厳しい数字だが、これは香美市の「振興計画（総合計画）」の数字か。

(事務局)：今回の数字は現在の住民基本台帳を元に「コーホート変化率法」で独自に住基人口をもとに推計したもの。

【山中委員】振興計画との整合性はどうなるか。

(事務局)：振興計画の推計が課まで回ってきていない、一致させたほうが良いか。

【山中委員】行政資料として、振興計画など他の計画と共通性を持たせたほうが良い。

(事務局)：地域創生課に確認し、推計手法の違いを含め再検討する。

③ 第9期計画の重点施策に関する評価

事務局より、資料に沿って説明

【公文委員】ACP（人生会議）などの専門用語が多く、一般住民が読むには非常にハードルが高い。住民代表として参加しているが、スマホで調べながらでないと理解できない部分が多い。計画自体に対して、どこに重きを置いているかによるが、住民の方に「香美市の高齢者への施策としての取り組み」について訴えるということを考えた場合、概要版の作成や広報活動といった実績はあるのか。

(事務局)：広報などに概要版を第9期計画では載せている。第10期計画も検討する。

【公文委員】住民が「香美市はこれだけ高齢者のために取り組んでくれている」と実感できるように、分かりやすい概要版の作成や広報の工夫をお願いしたい。

【高芝委員】香美市が高齢者にとって住みやすい町だと思う高齢者の割合が、令和4年に比べて7%減少した。なぜ下がったのか、香美市特有の要因があるのか、全国的な世相（物価高など）によるものかを熱意をもって深掘りする必要がある。

(事務局)：特定の理由は特定できていない。「住みやすい町だと思わない」方が増加した理由は、買い物、交通、医療機関の減少など、介護保険外の要因も大きいと推測している。詳細は再調査できていないが、近隣他市のデータとも比較し検討したい。

【山中委員】在宅生活を希望する独居の高齢者が増えてきている。しかし、高齢によって通院、買い物など日常生活に関係する問題を抱えた方が増加している実情もある。在宅生活を継続する為の重点的な施策の検討をお願いしたい。介護職の欠員や不足が以前から問題となっている。香美市職員の削減も人口減の中で起きているが、福祉関係の人材については重点的な配分なり確保を検討してほしい。また、介護人材の確保について、課題をもう少し掘り下げた対応を計画の中では取り組んでいただきたい。

【中山副会長】特別養護老人ホーム等での夜間・土日の看取り対応が、嘱託医の負担増により困難な状況にある。医師の確保や看取り体制の充実に向け、高知県の地域医療構想などの会議でも強く要望し、連携して取り組んでほしい。

④ アンケート調査結果

事務局より、資料に沿って説明。

【遠近委員】せっかく調査をしたので、結果を受けてぜひ次の施策をしっかりやっていただきたい。先ほども話があったが、高齢者が住みやすい町という割合が大幅に下がっているなど、対策が必要なのではないかな。認知症になっても自分らしく暮らし続けられると思う項目で「そう思う」と回答した方がかなり少ない。この部分も今後どうすべきか検討する内容として、施策に盛り込んでいただきたい。

【中山副会長】独居の方について閉じこもりのリスク該当者が、土佐山田、物部と減少しており良いことである。IADL（※日常生活動作）3点以下の該当者が、土佐山田・香北・物部ともに減少している。第9期計画の時のニーズ調査では確か該当者が増えていたと記憶しているが、特に物部とかは半分以下になっている。閉じこもりが少なくなり屋外で活動している場合、日常生活においても元気でいられるということがこの調査の結果で現れているのではないかと感じた。はつらつ体操、フレイル予防、介護予防事業効果が少しずつ現れているのではないかな。引き続き頑張ってください。

⑤ 計画策定スケジュールについて

事務局より、資料に沿って説明。

⑥ その他

- ・社会福祉法等の一部を改正する法律の概要について

事務局より、資料に沿って説明。

【弘末会長】直接この計画に直ちに影響するようなことはあるか。

（事務局）：直ちに影響するところは、無いと思う。有料老人ホームの制度の見直しにし

でも、特定地域の新しい類型ができるにしても、今の段階でそれを見込んで給付費の見込みに入れなければならないわけではないと県の説明会等で説明があった。

【山中委員】介護保険被保険者証のマイナンバーカードへの統合など、デジタル化の進捗はどうなっているか。現場（病院窓口等）では高齢者が多くのカードを所持し、混乱が生じている

（事務局）：国は令和10年度を目処に『介護情報基盤』を構築し、マイナンバーを活用して主治医意見書等の情報をケアマネジャーが閲覧できる仕組みを整えようとしている。被保険者証そのものの統合時期については、現時点で具体的な通知は届いていない

3. 閉会

事務局より閉会の挨拶が行われた。